様式第２号の１－①【⑴実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の１－②を用いること。

学校名	東京工科大学
設置者名	学校法人　片柳学園

１．「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
応用生物学部	応用生物学科	夜・通信	2	0	35	37	13	
コンピュータサイエンス学部	コンピュータサイエンス学科	夜・通信		0	16	18	13	
メディア学部	メディア学科	夜・通信		0	20	22	13	
工学部	機械工学科	夜・通信	2	10	11	23	13	
	電気電子工学科	夜・通信		12	8	22	13	
	応用化学科	夜・通信		12	8	22	13	
医療保健学部	看護学科	夜・通信	0	15	80	95	13	
	臨床工学科	夜・通信		9	42	51	13	
	臨床検査学科	夜・通信		2	28	30	13	
	作業療法学科	夜・通信		0	14	14	13	
	リハビリテーション学科 理学療法学専攻	夜・通信		13	85	98	13	
	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	夜・通信		13	77	90	13	
	リハビリテーション学科 言語聴覚学専攻	夜・通信		8	66	74	13	
デザイン学部	デザイン学部	夜・通信	0	4	65	69	13	

（備考） ・応用生物学部、コンピュータサイエンス学部、メディア学部、工学部、デザイン学部は、1～2 年と 3～4 年でカリキュラムが異なる。 ・医療保健学部作業療法学科は、令和 3 年 4 月に学生募集を停止しているが、まだ在学生がいる。 ・医療保健学部臨床工学科は、1～3 年と 4 年でカリキュラムが異なる。 ・医療保健学部リハビリテーション学科は、1 年と 2～4 年でカリキュラムが異なる。

２．「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

東京工科大学ホームページ　情報公開ページ「実務経験のある教員等による授業科目の一覧」にて公開　https://www.teu.ac.jp/koukai/index.html

３．要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
（困難である理由）

様式第２号の２－①【⑵-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第２号の２－②を用いること。

学校名	東京工科大学
設置者名	学校法人　片柳学園

１．理事（役員）名簿の公表方法

学校法人片柳学園ホームページ　情報公開ページ「役員・評議員」にて公開
https://www.katayanagi.ac.jp/kokai/

２．学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	株式会社代表取締役	2019.4.1～2029 年定時評議員会	関係業界知識の教育への反映,企業経営者としての経験
非常勤	元地方自治体首長	2012.12.1～2029 年定時評議員会	産官学連携
非常勤	企業グループ会長	2020.4.1～2029 年定時評議員会	企業経営者としての経験
非常勤	建築設計会社代表	2021.4.1～2029 年定時評議員会	関係業界知識の教育への反映,企業経営者としての経験
非常勤	創業株式会社顧問	2021.4.1～2029 年定時評議員会	同窓会会長･企業経営者としての経験

（備考）
私学法改正を受けて４月１日施行の本学園寄附行為附則第２項の規定により、全理事の任期を今年度定時評議員会終結時までに短縮し、改めて全理事を選出しています。

様式第２号の３【⑶厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	東京工科大学
設置者名	学校法人　片柳学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

１．授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書（シラバス）を作成し、公表していること。
（授業計画書の作成・公表に係る取組の概要） 本学では、全ての科目においてシラバスを作成し、学生に授業の方法、内容、到達目標、成績評価の基準等を示している。これらのシラバスは、学内外問わず、ホームページから閲覧することができる。 毎年、教務部長が委員長である全学教育委員会においてシラバス作成に関するガイドラインの内容を検討している。シラバス作成依頼時には、次年度のシラバスを作成する全教員に対し、「シラバス作成にあたってのお願い」という文書を送付し、これに沿って全教員はシラバスを作成している。また、全てのシラバスについて、ガイドラインに沿った内容になっているか各学部、教養学環の教務委員長を中心に第三者による確認作業を行い、必要に応じて書き直しをさせている。 シラバスは、公開前年の 12 月に作成を開始し、上記の第三者による確認を経て、各学部の新年度ガイダンスが始まる前の３月下旬にホームページを通じて学内外に公開している。

授業計画書の公表方法	https://www.teu.ac.jp/gakubu/syllabus/index.html

２．学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。
（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要） 成績評価については、試験の結果および平素の学修状況を総合して判定することとしている。各授業科目のシラバスに成績評価方法・基準という欄を設け、試験やレポートなどの評価要素をどのような比率で総合成績に反映するか学生に理解できるように記述している。このあらかじめ学生に示した基準に基づき、厳格かつ適正に成績評価、単位認定を実施している。

３．成績評価において、ＧＰＡ等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	
（客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要） 本学では、学生が自分の学業成績の達成度を客観的に評価できるようにGPAを適用している。GPA とは、履修した各科目の評価ポイントに、単位数を乗じた数を履修登録総単位数で除した値であり、このGPA値は履修登録単位の上限の緩和や成績順位・成績優秀者表彰の選考などに利用している。 算出方法は以下のとおりである。 GPA=（各科目の評価ポイント×単位数）の合計／履修登録総単位数 評価ポイントについては、S＝4、A＝3、B＝2、C＝1、D・X＝0としている。 なお、本学では、履修登録した科目については、単位修得不可となって再履修する科目についてもすべてGPAの計算式に組み込んでいる。そのため、不合格の評価となった科目も含め、GPA の値は計算される。また、成績の分布状況については、各学部・各学期のすべての科目について評定の分布を一覧表にまとめ、教授会やアゴラ（教員集会）等で、ガイドラインから過度な偏りが生じていないか等、検証を行っている。	
客観的な指標の 算出方法の公表方法	東京工科大学ホームページ　情報公開ページ「学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準」にて公開　https://www.teu.ac.jp/koukai/index.html

４．卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。
（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要） 本学では、以下のとおり大学全体で定める共通のディプロマポリシーを定めている。 本学の建学の理念、教育研究上の目的に基づき、次の学修到達目標に定める資質・能力を身に付け、各学部・学科・専攻ごとに定める所定の期間在学し、所定の単位を修得した学生に対し、卒業を認定し、学士の学位を授与する。 1.国際的な教養 ・人々や社会・文化の多様性を理解し、社会人・国際人として活躍できる教養を身に付ける。 ・情報リテラシー・数理科目(情報機器活用能力やデータサイエンスの素養を含む)、自然科学分野における教養を身に付ける。 2.実学に基づく専門能力 ・自らの目指す専門領域に関する基礎知識やその応用力（技能）を身に付ける。 ・自らの目指す専門領域の研究者・技術者となるために必要な実学に基づく専門能力を身に付ける。 3.コミュニケーション能力 ・わかりやすく自分の考えや研究成果を伝える力を身に付ける。 ・多様な価値観を持つ人々との意見の違いや相手の立場を理解する力を身に付ける。 4.論理的な思考力 ・論理的に考える力(レポートを科学的な方法で執筆する力を含む)を身に付ける。 5.分析・評価能力 ・収集した情報を分析的・批判的に捉える力を身に付ける。 6.問題解決力 ・科学的な思索を通して、課題を発見し、解決する力を身に付ける。 さらに、大学共通のディプロマポリシーに専門的能力を具体化した形で、学部ごとにディプロマポリシーを定めている。 このディプロマポリシーを含む各ポリシーは、大学ホームページや学生便覧などを通じて広く公表している。 各科目とディプロマポリシーに定めたラーニングアウトカムズの対応関係を示したカリキュラムマップを作成し、科目ごとの到達レベルをシラバスで記述している。また１年から２年（医療保健学部は２年から３年）の進級要件および卒業研究/卒業課題の着手要件を定め、学修状況に応じた科目履修を進めるとともに学修が困難な学生の早期発見に努めている。卒業認定基準は所定の科目履修、単位修得によって認定しており、各科目で定めたラーニングアウトカムズとの対応の総体でディプロマポリシーを保証している。進級要件、卒業要件は、学生便覧に記載し、学生及び教員に周知している。カリキュラムマップは、学内ホームページに掲載している。

卒業の認定に関する方針の公表方法	https://www.teu.ac.jp/gaiyou/policy/unev_2024.html

様式第２号の４－①【⑷財務・経営情報の公表（大学・短期大学・高等専門学校）】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の４－②を用いること。

学校名	東京工科大学
設置者名	学校法人　片柳学園

１．財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.katayanagi.ac.jp/kokai/
収支計算書又は損益計算書	https://www.katayanagi.ac.jp/kokai/
財産目録	https://www.katayanagi.ac.jp/kokai/
事業報告書	https://www.katayanagi.ac.jp/kokai/
監事による監査報告（書）	https://www.katayanagi.ac.jp/kokai/

２．事業計画（任意記載事項）

単年度計画（名称：　　対象年度：　　）	
公表方法：	
中長期計画（名称：　　対象年度：　　）	
公表方法：	

３．教育活動に係る情報

（１）自己点検・評価の結果

公表方法：東京工科大学ホームページ「自己点検・自己評価」のページにて公表
https://www.teu.ac.jp/jhyouka/index.html

（２）認証評価の結果（任意記載事項）

公表方法：東京工科大学ホームページ「大学機関別認証評価」のページにて公表
https://www.teu.ac.jp/gaiyou/009923.html

（３）学校教育法施行規則第 172 条の２第１項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名　応用生物学部
教育研究上の目的 （公表方法：https://www.teu.ac.jp/gakubu/bionics/policy/unev_bs_2024.html）
（概要） 応用生物学部、応用生物学科は、生物の高効率・省エネルギーシステムに学び、これを工学的に応用することにより、社会・産業に役立つ有為な人材を養成する。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：https://www.teu.ac.jp/gakubu/bionics/policy/unev_bs_2024.html）
（概要） 本学の建学の理念、本学部の教育研究上の目的に基づき、次の学修到達目標に定める資質・能力を身に付け、本学部で定める所定の期間在学し、所定の単位を修得した学生に対し、卒業を認定し、学士の学位を授与する。 1.国際的な教養 ・人々や社会・文化の多様性を理解し、社会人・国際人として活躍できる教養を身に付ける。 ・情報リテラシー・数理科学(情報機器活用能力やデータサイエンスの素養を含む)、自然科学分野における教養を身に付ける。 2.実学に基づく専門能力 ・生物学や化学にかかわるやその応用力（実験操作技能等）を身に付ける。 ・生命医薬、地球環境、食品、化粧品等の分野の研究者・技術者となるために必要な知識やその応用力（実験操作技能等）を身に付ける。 3.コミュニケーション能力 ・わかりやすく自分の考えや研究成果を伝える力を身に付ける。 ・多様な価値観を持つ人々との意見の違いや相手の立場を理解する力を身に付ける。 4.論理的な思考力 ・論理的に考える力(レポートを科学的な方法で執筆する力を含む)を身に付ける。 5.分析・評価能力 ・収集した情報を分析的・批判的に捉える力を身に付ける。 6.問題解決力 ・科学的な思索を通して、課題を発見し、解決する力を身に付ける。

教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法：https://www.teu.ac.jp/gakubu/bionics/policy/unev_bs_2024.html）
（概要） 応用生物学部の学位授与の方針に掲げる資質・能力を修得するため、教育課程編成・実施の方針、学修成果の評価方法を次のように定める。 教育課程編成・実施の方針 教育課程は、実学基礎科目、専門基礎教育科目、専門教育科目から構成する。 1.実学基礎科目は、以下の科目群から編成する。 人文・社会、外国語、情報・数理科目(情報機器の活用技術やデータサイエンスを含む)、自然科学、ウェルビーイング、社会人基礎(キャリア教育科目を含む)、社会連携(就業経験、地域活動、海外実習等各種の学外との連携プログラムを含む) 2.専門基礎教育科目は、以下の各分野の科目から編成する。 生物学、化学、数理、及びそれらを活用する基礎科目やそれらに関する基礎実験 3.専門教育科目は、以下の各分野の科目から構成する。 生命医薬、地球環境、食品、化粧品等の専門分野を深めるための科目、及び課題研究 これらの授業科目は、講義、演習、実習、実験等を組み合わせて体系的に編成し、学生の主体的・能動的な学修・研究を促す。 学修成果の評価方法 授業の形態（講義、演習、実習、実験等）に応じて、定期試験、レポート、授業中の小テストや発表等各科目のシラバスに明記された評価方法に基づき、学修成果を厳格に判定する。主な課題研究(とくに、卒業年次の課題研究)では、複数の教員の前で各学生が研究成果を発表する審査会を開催し、学生の総合的能力を複数の教員が評価する。
入学者の受入れに関する方針 （公表方法：https://www.teu.ac.jp/gakubu/bionics/policy/unev_bs_2024.html）
（概要） 本学の建学の理念及び本学部の教育研究上の目的を理解し、本学部の教育研究に強い関心を持ち、下記のような志を持った学生を応用生物学部は受け入れる。 1.応用生物学部の専門分野の学修と研究に強い意欲を持って挑み、医療、環境、食品、化粧品等の産業分野で自立して活躍することをめざす人 2.国際的な教養と豊かな人間性を育み、持続可能な社会の実現に貢献する意欲がある人 3.主体性を持って多様な人と協働して学ぶ意欲がある人 入学後の学修のため、以下の教科・科目の内容を入学前に修得していることが望まれる。 【生物、化学、数学(II・B相当)、英語や国語(現代文)の基礎力にかかわる教科・科目】

学部等名　コンピュータサイエンス学部
教育研究上の目的 （公表方法：https://www.teu.ac.jp/gakubu/cs/policy/unev_cs_2024.html）
（概要） コンピュータサイエンス学部、コンピュータサイエンス学科は、コンピュータ、ネットワーク、システム等における要素技術を含む情報通信応用技術の教育研究を通じて、社会に貢献することのできる有為な人材を養成する。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：https://www.teu.ac.jp/gakubu/cs/policy/unev_cs_2024.html）
（概要） 本学の建学の理念及び本学部の教育研究上の目的に基づき、次の学修到達目標に定める資質・能力を身に付け、本学部で定める所定の期間在学し、所定の単位を修得した学生に対し、卒業を認定し、学士の学位を授与する。 1.国際的な教養 ・人々や社会・文化の多様性を理解し、社会人・国際人として活躍できる教養を身に付ける。 ・基礎的な情報リテラシー・数理科学(情報機器活用能力やデータサイエンスの素養を含む)、自然科学分野における教養を身に付ける。 2.実学に基づく専門能力 ・情報通信技術にかかわる基礎知識やその応用力（コンピュータ、プログラミング、データ分析、価値創造等）を身に付ける。 ・情報科学（情報基盤技術、人間工学、人工知能等）もしくは社会情報学（ビジネス変革、データサイエンス、プロジェクトマネジメント等）の分野の研究者・技術者となるために必要な専門知識やその応用力を身に付ける。 3.コミュニケーション能力 ・わかりやすく自分の考えや研究成果・開発成果・調査成果を伝える力を身に付ける。 ・多様な価値観を持つ人々との意見の違いや相手の立場を理解する力を身に付ける。 4.論理的な思考力 ・論理的に考える力(レポートを科学的な方法で執筆する力を含む)を身に付ける。 5.分析・評価能力 ・収集した情報を分析的・批判的に捉える力を身に付ける。 6.問題解決力 ・科学的な思索を通して、課題を発見し、解決する力を身に付ける。

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：https://www.teu.ac.jp/gakubu/cs/policy/unev_cs_2024.html）

（概要）
コンピュータサイエンス学部の学位授与の方針に掲げる資質・能力を修得するため、教育課程編成・実施の方針、学修成果の評価方法を次のように定める。

教育課程編成・実施の方針
教育課程は、実学基礎科目、専門基礎教育科目、専門教育科目から構成する。

1.実学基礎科目は、以下の科目群から編成する。
人文・社会、外国語、情報・数理科目(情報機器の活用技術やデータサイエンスを含む)、自然科学、ウェルビーイング、社会人基礎(キャリア教育科目を含む)、社会連携(就業経験、地域活動、海外実習等各種の学外との連携プログラムを含む)
2.専門基礎教育科目は、以下の各分野の科目から編成する。
数理、マネジメント、コンピュータ、プログラミング及び、それらを活用する基礎科目
3.専門教育科目は、以下の各分野の科目から構成する。
情報通信技術、情報科学、社会情報学等の専門分野を深めるための科目、及び、卒業課題
これらの授業科目は、講義、演習、実習を組み合わせて体系的に編成し、学生の主体的・能動的な学修・研究を促す。

学修成果の評価方法
授業の形態（講義、演習、実習等）に応じて、定期試験、レポート、授業中の小テストや発表等各科目のシラバスに明記された評価方法に基づき、学修成果を厳格に判定する。卒業課題では、複数の教員の前で各学生が研究成果・開発成果・調査成果を発表する審査会を開催し、発表の内容と学生が作成する成果報告書に基づいて学生の総合的能力を複数の教員が評価する。

入学者の受入れに関する方針
（公表方法：https://www.teu.ac.jp/gakubu/cs/policy/unev_cs_2024.html）

（概要）
本学の建学の理念及び本学部の教育研究上の目的を理解し、本学部の教育研究に強い関心を持ち、下記のような志を持った学生をコンピュータサイエンス学部は受け入れる。

1.コンピュータサイエンス学部の専門分野の学修と研究に強い意欲を持って挑み、先進的情報通信技術の開発や応用の分野で自立して活躍することをめざす人
2.国際的な教養と豊かな人間性、高い倫理性、創造性を育み、持続可能な社会の実現に貢献する意欲がある人
3.自己成長して自らの夢の実現をめざし、情報通信技術者として新たな社会システムを創造する意欲がある人

入学後の学修のため、コンピュータサイエンス学部の各専攻の入学者には以下の教科の内容を入学前に修得していることが望まれる。
・先進情報専攻：数学(数学 III・C 相当)、英語や国語(現代文)の基礎力にかかわる教科・科目
・社会情報専攻：数学(数学 II・B 相当)、英語や国語(現代文)の基礎力にかかわる教科・科目

学部等名　メディア学部
教育研究上の目的 （公表方法：https://www.teu.ac.jp/gakubu/media/policy/unev_ms_2024.html）
（概要） メディア学部、メディア学科は、人間社会のあらゆる局面において機能するメディアに関して、メディア表現、メディア環境、メディア技術などの教育を通じて、多様で発展的なメディア分野で活躍することのできる創造性豊かな人材を養成する。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：https://www.teu.ac.jp/gakubu/media/policy/unev_ms_2024.html）
（概要） 本学の建学の理念、本学部の教育研究上の目的に基づき、次の学修到達目標に定める資質・能力を身に付け、本学部で定める所定の期間在学し、所定の単位を修得した学生に対し、卒業を認定し、学士の学位を授与する。 1.国際的な教養 ・人々や社会・文化の多様性を理解し、社会人・国際人として活躍できる教養を身に付ける。 ・情報リテラシー・数理科学(情報機器活用能力やデータサイエンスの素養を含む)、自然科学分野における教養を身に付ける。 2.実学に基づく専門能力 ・メディア処理の基礎能力や、社会におけるメディアの役割についての基礎知識を身に付ける。 ・メディアコンテンツの制作や活用に関わる分野の研究者・技術者となるために必要な基礎知識やその応用力(各種機材やソフトウェアの活用能力を含む)を身に付ける。 3.コミュニケーション能力 ・わかりやすく自分の考えや研究成果を伝える力を身に付ける。 ・多様な価値観を持つ人々との意見の違いや相手の立場を理解する力を身に付ける。 4.論理的な思考力 ・論理的に考える力(レポートを科学的な方法で執筆する力を含む)を身に付ける。 5.分析・評価能力 ・収集した情報を分析的・批判的に捉える力を身に付ける。 6.問題解決力 ・科学的な思索を通して、課題を発見し、解決する力を身に付ける。

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：https://www.teu.ac.jp/gakubu/media/policy/unev_ms_2024.html）

（概要）
メディア学部の学位授与の方針に掲げる資質・能力を修得するため、教育課程編成・実施の方針、学修成果の評価方法を次のように定める。

教育課程編成・実施の方針
実学基礎科目は、人文・社会、外国語、情報・数理科目(情報機器の活用技術やデータサイエンスを含む)、自然科学、ウェルビーイング、社会人基礎(キャリア教育科目を含む)、社会連携(就業経験、地域活動、海外実習等各種の学外との連携プログラムを含む)の科目群によって編成される。

1.専門基礎教育科目は、メディアコンテンツの表現、技術、環境に関わる専門分野の基礎的な知識や技能を学ぶための科目群によって編成される。

2.専門教育科目は、メディアテクノロジーの原理、コンテンツ制作手法、メディア社会への応用手法を学ぶとともに、これらの知識や技術を総合的に活用し、新しい価値の創造に結び付けるための科目群によって編成される。

これらの授業科目は、講義・演習・実習を組み合わせて体系的に編成し、メディアの全分野に共通する必修科目、分野ごとに必要性が分かれる選択必修科目、学生の自由で主体的な学びに重点を置いた選択科目に分けて配置し、基礎から実践までを通して学ぶことを可能とする。

学修成果の評価方法
授業の形態（講義、演習、実習）に応じて、定期試験、レポート、授業中の課題提出や発表、実習の成果等各科目のシラバスに明記された評価方法に基づき、学修成果を厳格に判定する。主な課題研究(とくに、卒業研究)では、複数の教員の前で各学生が研究成果を発表する審査会を開催し、学生の総合的能力を複数の教員が評価する。

入学者の受入れに関する方針
（公表方法：https://www.teu.ac.jp/gakubu/media/policy/unev_ms_2024.html）

（概要）
本学の建学の理念及び本学部の教育研究上の目的を理解し、本学部の教育研究に強い関心を持ち、下記のような志を持った学生をメディア学部は受け入れる。

1.メディア学部の専門分野の学修と研究に強い意欲を持って挑み、メディアコンテンツの制作・活用に関わる産業分野で自立して活躍することを目指す人
2.国際的な教養と豊かな人間性を育み、持続可能な社会の実現に貢献する意欲がある人
3.メディアを活用した新たな価値やサービスを創造し、社会を変革していく意思のある人
4.高い倫理性を持ち、社会におけるメディアのあり方を常に考え続けていくことのできる人

入学後の学修のため、以下の教科・科目の内容を入学前に修得していることが望まれる。
【数学(II・B相当)、英語や国語(現代文)の基礎力にかかわる教科・科目】

学部等名　工学部機械工学科
教育研究上の目的 （公表方法：https://www.teu.ac.jp/gakubu/eng/policy/unev_es_me.html）
（概要） 工学部、機械工学科は、サステイナブル工学の技術と機械、電気電子、システム等の教育研究をつうじて、生活の質の向上と持続可能な社会の構築に貢献できる有為な人材を養成する。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：https://www.teu.ac.jp/gakubu/eng/policy/unev_es_me.html）
（概要） 本学の建学の理念、本学部学科の教育研究上の目的に基づき、次の学修到達目標に定める資質・能力を身に付け、本学科で定める所定の期間在学し、所定の単位を修得した学生に対し、卒業を認定し、学士の学位を授与する。 1.国際的な教養 ・人々や社会・文化の多様性を理解し、社会人・国際人として活躍できる教養を身に付ける。 ・情報リテラシー・数理科学(情報機器活用能力やデータサイエンスの素養を含む)、自然科学分野における教養を身に付ける。 2.実学に基づく専門能力 ・機械システム分野の研究者・技術者となるために必要な基礎知識やその応用力（創造、解析、統合、開発）を身に付ける。 3.コミュニケーション能力 ・わかりやすく自分の考えや研究成果を伝える力を身に付ける。 ・多様な価値観を持つ人々との意見の違いや相手の立場を理解する力を身に付ける。 4.論理的な思考力 ・論理的に考える力(レポートを科学的な方法で執筆する力を含む)を身に付ける。 5.分析・評価能力 ・収集した情報を分析的・批判的に捉える力を身に付ける。 6.問題解決力 ・科学的な思索を通して、課題を発見し、解決する力を身に付ける。

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：https://www.teu.ac.jp/gakubu/eng/policy/unev_es_me.html）

（概要）
工学部機械工学科の学位授与の方針に掲げる資質・能力を修得するため、教育課程編成・実施の方針、学修成果の評価方法を次のように定める。

教育課程編成・実施の方針
教育課程は、実学基礎科目、専門基礎教育科目、専門教育科目から構成する。

1.実学基礎科目は、以下の科目群から編成する。
人文・社会、外国語、情報・数理科目(情報機器の活用技術やデータサイエンスを含む)、自然科学、ウェルビーイング、社会人基礎(キャリア教育科目を含む)、社会連携(就業経験、地域活動、海外実習等各種の学外との連携プログラムを含む)
2.専門基礎教育科目は、以下の各分野の科目から編成する
数学、物理、電子工学基礎、及びそれらを活用する基礎科目やそれらに関する基礎実験、及びプログラミング演習
3.専門教育科目は、以下の各分野の科目から構成する。
専門分野を深めるための、基盤機械工学系科目、計測制御、ロボット理論技術系科目、さらにそれらに関連する専門実験演習科目や設計製図系科目、及び課題研究
これらの授業科目は、講義、演習、実習、実験等を組み合わせて体系的に編成し、学生の主体的・能動的な学修・研究を促す。

学修成果の評価方法
授業の形態（講義、演習、実習）に応じて、定期試験、レポート、授業中の小テストや発表等各科目のシラバスに明記された評価方法に基づき、学修成果を厳格に判定する。主な課題研究(とくに、卒業年次の課題研究)では、複数の教員の前で各学生が研究成果を発表する審査会を開催し、学生の総合的能力を複数の教員が評価する。

入学者の受入れに関する方針
（公表方法：https://www.teu.ac.jp/gakubu/eng/policy/unev_es_me.html）

（概要）
本学の建学の理念及び本学科の教育研究上の目的を理解し、本学科の教育研究に強い関心を持ち、下記のような志を持った学生を工学部機械工学科は受け入れる。

1.工学部機械工学科の専門分野の学修と研究に強い意欲を持って挑み、自動車・鉄道・航空宇宙産業、人の生活や産業を支えるロボット製造業、ものづくりを促進する工作機械製造業や、新しい材料・エネルギー分野等の産業分野で自立して活躍することをめざす人
2.国際的な教養と豊かな人間性を育み、持続可能な社会の実現に貢献する意欲がある人
3.本学工学部、企業と連携しコーオプ教育の課程への参画を通じて自身の成長と同時に社会に貢献する意志のある人
4.自らのアイディアや行動力によりものづくりのできる人

入学後の学修のため、以下の教科・科目の内容を入学前に修得していることが望まれる。
【物理、数学（数学 III・C 相当）、英語や国語(現代文)の基礎力にかかわる教科・科目】

学部等名　工学部電気電子工学科
教育研究上の目的 （公表方法：https://www.teu.ac.jp/gakubu/eng/policy/unev_es_el.html）
（概要） 工学部、電気電子工学科は、サステイナブル工学の技術と電気、電子、情報通信技術等の教育研究をつうじて、生活の質の向上と持続可能な社会の構築に貢献できる有為な人材を養成する。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：https://www.teu.ac.jp/gakubu/eng/policy/unev_es_el.html）
（概要） 本学の建学の理念、本学部学科の教育研究上の目的に基づき、次の学修到達目標に定める資質・能力を身に付け、本学科で定める所定の期間在学し、所定の単位を修得した学生に対し、卒業を認定し、学士の学位を授与する。 1.国際的な教養 ・人々や社会・文化の多様性を理解し、社会人・国際人として活躍できる教養を身に付ける。 ・情報リテラシー・数理科学(情報機器活用能力やデータサイエンスの素養を含む)、自然科学分野における教養を身に付ける。 2.実学に基づく専門能力 ・電気・電子、数学・物理、情報通信にかかわる基礎知識やその応用力（実験操作技能等）を身に付ける。 ・電力、パワーエレクトロニクス、ネットワーク、コンピュータ、センサ、半導体デバイス等の分野の研究者・技術者となるために必要な基礎知識やその応用力（実験操作技能等）を身に付ける。 3.コミュニケーション能力 ・わかりやすく自分の考えや研究成果を伝える力を身に付ける。 ・多様な価値観を持つ人々との意見の違いや相手の立場を理解する力を身に付ける。 4.論理的な思考力 ・論理的に考える力(レポートを科学的な方法で執筆する力を含む)を身に付ける。 5.分析・評価能力 ・収集した情報を分析的・批判的に捉える力を身に付ける。 6.問題解決力 ・科学的な思索を通して、課題を発見し、解決する力を身に付ける。

教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法：https://www.teu.ac.jp/gakubu/eng/policy/unev_es_el.html）
（概要） 工学部電気電子工学科の学位授与の方針に掲げる資質・能力を修得するため、教育課程編成・実施の方針、学修成果の評価方法を次のように定める。 教育課程編成・実施の方針 教育課程は、実学基礎科目、専門基礎教育科目、専門教育科目から構成する。 1.実学基礎科目は、以下の科目群から編成する。 人文・社会、外国語、情報・数理科目(情報機器の活用技術やデータサイエンスを含む)、自然科学、ウェルビーイング、社会人基礎(キャリア教育科目を含む)、社会連携(就業経験、地域活動、海外実習等各種の学外との連携プログラムを含む) 2.専門基礎教育科目は、以下の各分野の科目から編成する 電気・電子、数学・物理、情報通信、及び、それらを活用する基礎科目やそれらに関する基礎実験 3.専門教育科目は、以下の各分野の科目から構成する。 電力、パワーエレクトロニクス、ネットワーク、コンピュータ、センサ、半導体デバイス等の専門分野を深めるための科目、及び、課題研究 これらの授業科目は、講義、演習、実習、実験等を組み合わせて体系的に編成し、学生の主体的・能動的な学修・研究を促す。 学修成果の評価方法 授業の形態（講義、演習、実習、実験等）に応じて、定期試験、レポート、授業中の小テストや発表等各科目のシラバスに明記された評価方法に基づき、学修成果を厳格に判定する。主な課題研究(とくに、卒業年次の課題研究)では、複数の教員の前で各学生が研究成果を発表する審査会を開催し、学生の総合的能力を複数の教員が評価する。
入学者の受入れに関する方針 （公表方法：https://www.teu.ac.jp/gakubu/eng/policy/unev_es_el.html）
（概要） 本学の建学の理念及び本学科の教育研究上の目的を理解し、本学科の教育研究に強い関心を持ち、下記のような志を持った学生を工学部電気電子工学科は受け入れる。 1.工学部電気電子工学科の専門分野の学修と研究に強い意欲を持って挑み、半導体、電子・電気機器、自動車、情報通信システム、エネルギー等産業分野で自立して活躍することをめざす人 2.国際的な教養と豊かな人間性を育み、持続可能な社会の実現に貢献する意欲がある人 3.本学工学部、企業と連携しコーオプ教育の課程への参画を通じて自身の成長と同時に社会に貢献する意志のある人 入学後の学修のため、以下の教科・科目の内容を入学前に修得していることが望まれる。 【物理、化学、数学（数学III・C相当）、英語や国語(現代文)の基礎力にかかわる教科・科目】

学部等名　工学部応用化学科
教育研究上の目的 （公表方法：https://www.teu.ac.jp/gakubu/eng/policy/unev_es_ac.html）
（概要） 工学部、応用化学科はサステイナブル工学の技術と材料化学、化学プロセス、化学システム等の教育研究をつうじて、生活の質の向上と持続可能な社会の構築に貢献できる有為な人材を養成する。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：https://www.teu.ac.jp/gakubu/eng/policy/unev_es_ac.html）
（概要） 本学の建学の理念、本学部学科の教育研究上の目的に基づき、次の学修到達目標に定める資質・能力を身に付け、本学科で定める所定の期間在学し、所定の単位を修得した学生に対し、卒業を認定し、学士の学位を授与する。 1.国際的な教養 ・人々や社会・文化の多様性を理解し、社会人・国際人として活躍できる教養を身に付ける。 ・情報リテラシー・数理科学(情報機器活用能力やデータサイエンスの素養を含む)、自然科学分野における教養を身に付ける。 2.実学に基づく専門能力 ・化学にかかわる基礎知識や基礎技術（実験操作技能等）を身に付ける。 ・先進的な環境材料、エネルギー、分子の創造にかかわり、材料化学、エネルギー化学、生物化学、化学工学などの分野の研究者・技術者となるために必要な知識やその応用力（機器分析技術を含む課題遂行能力）を身に付ける。 3.コミュニケーション能力 ・わかりやすく自分の考えや研究成果を伝える力を身に付ける。 ・多様な価値観を持つ人々との意見の違いや相手の立場を理解する力を身に付ける。 4.論理的な思考力 ・論理的に考える力(レポートを科学的な方法で執筆する力を含む)を身に付ける。 5.分析・評価能力 ・収集した情報を分析的・批判的に捉える力を身に付ける。 6.問題解決力 ・科学的な思索を通して、課題を発見し、解決する力を身に付ける。

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：https://www.teu.ac.jp/gakubu/eng/policy/unev_es_ac.html）

（概要）
工学部応用化学科の学位授与の方針に掲げる資質・能力を修得するため、教育課程編成・実施の方針、学修成果の評価方法を次のように定める。

教育課程編成・実施の方針
教育課程は、実学基礎科目、専門基礎教育科目、専門教育科目から構成する。

1.実学基礎科目は、以下の科目群から編成する。
人文・社会、外国語、情報・数理科目(情報機器の活用技術やデータサイエンスを含む)、自然科学、ウェルビーイング、社会人基礎(キャリア教育科目を含む)、社会連携(就業経験、地域活動、海外実習など各種の学外との連携プログラムを含む)
2.専門基礎教育科目は、以下の各分野の科目から編成する
化学基礎、無機化学、有機化学、物理化学、分析化学、化学数学、および、それらを活用する基礎科目やそれらに関する基礎実験
3.専門教育科目は、以下の各分野の科目から構成する。
先進的な環境材料、エネルギー、分子の創造にかかわり、材料化学、エネルギー化学、生物化学、化学工学などの専門分野を深めるための科目、および、課題研究
これらの授業科目は、講義、演習、実習、実験等を組み合わせて体系的に編成し、学生の主体的・能動的な学修・研究を促す。

学修成果の評価方法
授業の形態（講義、演習、実習、実験等）に応じて、定期試験、レポート、授業中の小テストや発表など各科目のシラバスに明記された評価方法に基づき、学修成果を厳格に判定する。主な課題研究(とくに、卒業年次の課題研究)では、複数の教員の前で各学生が研究成果を発表する審査会を開催し、学生の総合的能力を複数の教員が評価する。

入学者の受入れに関する方針
（公表方法：https://www.teu.ac.jp/gakubu/eng/policy/unev_es_ac.html）

（概要）
本学の建学の理念及び本学科の教育研究上の目的を理解し、本学科の教育研究に強い関心を持ち、下記のような志を持った学生を工学部応用化学科は受け入れる。

1.工学部応用化学科の専門分野の学修と研究に強い意欲を持って挑み、化学、環境、エネルギー、生命科学、医薬品、化粧品などの産業分野で自立して活躍することをめざす人
2.国際的な教養と豊かな人間性を育み、持続可能な社会の実現に貢献する意欲がある人
3.本学工学部、企業と連携しコーオプ教育の課程への参画を通じて自身の成長と同時に社会に貢献する意志のある人

入学後の学修のため、以下の教科・科目の内容を入学前に修得していることが望まれる。
【化学、数学(数学 II・B 相当)、英語や国語(現代文)の基礎力にかかわる教科・科目】

学部等名　医療保健学部看護学科
教育研究上の目的 （公表方法：https://www.teu.ac.jp/gakubu/medical/policy/unev_hs_ns.html）
（概要） 医療保健学部、看護学科は、看護学及び保健学を学び、医療、産業、行政、地域の分野で看護、保健活動に従事する人間性豊かで自立した有為な人材を養成する。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：https://www.teu.ac.jp/gakubu/medical/policy/unev_hs_ns.html）
（概要） 本学の建学の理念及び本学部学科の教育研究上の目的に基づき、次の学修到達目標に定める資質・能力を身に付け、本学科で定める所定の期間在学し、所定の単位を修得した学生に対し、卒業を認定し、学士の学位を授与する。 1.国際的な教養 ・人々や社会・文化の多様性を理解し、社会人・国際人として活躍できる教養を身に付ける。 ・情報リテラシー・数理科学(情報機器活用能力やデータサイエンスの素養を含む)、自然科学分野における教養を身に付ける。 2.実学に基づく専門能力 ・看護の対象となる人々を取り巻く環境と、環境が人々の健康に与える影響、保健医療福祉の概念やシステム・制度を学ぶ。 ・看護の基礎、看護の方法、看護の実践、看護の統合の発展に関する基礎知識と応用力を講義、演習、実習を通して身につける。 3.コミュニケーション能力 ・わかりやすく自分の考えや研究成果を伝える力を身に付ける。 ・多様な価値観を持つ人々との意見の違いや相手の立場を理解する力を身に付ける。 ・他職種の専門性を理解し、協働できる調整力とコミュニケーション能力を身に付ける。 4.論理的な思考力 ・論理的に考える力(レポートを科学的な方法で執筆する力を含む)を身に付ける。 5.分析・評価能力 ・収集した情報を分析的・批判的に捉える力を身に付ける。 6.問題解決力 ・科学的な思索を通して、課題を発見し、解決する力を身に付ける。

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：https://www.teu.ac.jp/gakubu/medical/policy/unev_hs_ns.html）

（概要）
医療保健学部 看護学科の学位授与の方針に掲げる資質・能力を修得するため、教育課程編成・実施の方針、学修成果の評価方法を次のように定める。

教育課程編成・実施の方針
　教育課程は、基礎教育科目、専門基礎科目、専門科目から構成する。

1.基礎教育科目は、以下の科目群から編成する。
人文・社会、外国語、心身ウェルネス、コンピュータ、人間形成及び自然科学
2.専門基礎科目は、以下の各分野の科目から編成する。
人間社会と医療、人体のメカニズムと疾病・障害に関する科目
3.専門科目は、以下の各分野の科目から構成する。
看護の基礎、看護の方法、看護の実践、看護の統合、看護の発展に関する科目、及び、看護研究

これらの授業科目は、講義、演習、実習、実験等を組み合わせて体系的に編成し、学生の主体的・能動的な学修・研究を促す。

学修成果の評価方法
授業の形態（講義、演習、実習、実験等）に応じて、定期試験、レポート、授業中の小テストや発表等各科目のシラバスに明記された評価方法に基づき、学修成果を厳格に判定する。主な課題研究(とくに、卒業年次の課題研究)では、複数の教員の前で各学生が研究成果を発表する審査会を開催し、学生の総合的能力を複数の教員が評価する。

入学者の受入れに関する方針
（公表方法：https://www.teu.ac.jp/gakubu/medical/policy/unev_hs_ns.html）

（概要）
本学の建学の理念及び本学科の教育研究上の目的を理解し、本学科の教育研究に強い関心を持ち、下記のような志を持った学生を医療保健学部看護学科は受け入れる。

1.医療保健学部看護学科の専門分野の学修と研究に強い意欲を持って挑み、医療、行政、産業、学校等の保健看護分野で自律して活躍することをめざす人
2.国際的な教養と豊かな人間性を育み、持続可能な社会の実現に貢献する意欲がある人
3.人に関心をもち、だれとでも良好なコミュニケーションをとることができる人
4.規範を守り、チームメンバーを尊重しあい、連携をとることができる人

入学後の学修のため、以下の教科・科目の内容を入学前に修得していることが望まれる。
【数学(数学Ⅰ・A 相当)、英語や国語(現代文)の基礎力にかかわる教科・科目】

学部等名　医療保健学部臨床工学科
教育研究上の目的 （公表方法：https://www.teu.ac.jp/gakubu/medical/policy/unev_hs_clinic.html）
（概要） 医療保健学部臨床工学科は、医用工学及び医用機器の基礎と臨床応用を学び、医療現場における機器の管理、他職種への指導を通じて高度な医療行為に参画する有為な人材を養成する。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：https://www.teu.ac.jp/gakubu/medical/policy/unev_hs_clinic.html）
（概要） 本学の建学の理念及び本学部学科の教育研究上の目的に基づき、次の学修到達目標に定める資質・能力を身に付け、本学科で定める所定の期間在学し、所定の単位を修得した学生に対し、卒業を認定し、学士の学位を授与する。 1.国際的な教養 ・人々や社会・文化の多様性を理解し、社会人・国際人として活躍できる教養を身に付ける。 ・情報リテラシー・数理科学(情報機器活用能力やデータサイエンスの素養を含む)、自然科学分野における教養を身に付ける。 2.実学に基づく専門能力 ・将来臨床工学技士として活躍するために必要な医学・工学・臨床工学にかかわる基礎知識やその応用力（実験機器・医療機器の操作技能等）を身に付ける。 3.コミュニケーション能力 ・わかりやすく自分の考えや研究成果を伝える力を身に付ける。 ・多様な価値観を持つ人々との意見の違いや相手の立場を理解する力を身に付ける。 ・他職種の専門性を理解し協働できる調整力とコミュニケーション能力を身に付ける。 4.論理的な思考力 ・論理的に考える力(レポートを科学的な方法で執筆する力を含む)を身に付ける。 5.分析・評価能力 ・収集した情報を統計によってモデル化して評価し、分析的・批判的に捉える力を身に付ける。 6.問題解決力 ・科学的な思索を通して、課題を発見し、解決する力を身に付ける。

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：https://www.teu.ac.jp/gakubu/medical/policy/unev_hs_clinic.html）

（概要）
医療保健学部 臨床工学科の学位授与の方針に掲げる資質・能力を修得するため、教育課程編成・実施の方針、学修成果の評価方法を次のように定める。

教育課程編成・実施の方針
　教育課程は、基礎教育科目、専門基礎科目、専門科目から構成する。

1.基礎教育科目は、以下の科目群から編成する。
人文・社会、外国語、心身ウェルネス、コンピュータ、人間形成、自然科学
2.専門基礎科目は、以下の各分野の科目から編成する。
基礎医学、工学及び、それらを活用する基礎科目
3.専門科目は、以下の各分野の科目から構成する。
臨床医学、臨床工学の専門分野を深めるための科目及び、卒業研究

これらの授業科目は、講義、演習、実習、実験等を組み合わせて体系的に編成し、学生の主体的・能動的な学修・研究を促す。

学修成果の評価方法
授業の形態（講義、演習、実習、実験等）に応じて、定期試験、レポート、授業中の小テストや発表等、各科目のシラバスに明記された評価方法に基づき、学修成果を厳格に判定する。主な課題研究(特に、卒業年次の課題研究)では、複数の教員の前で各学生が研究成果を発表する審査会を開催し、学生の総合的能力を複数の教員が評価する。

入学者の受入れに関する方針
（公表方法：https://www.teu.ac.jp/gakubu/medical/policy/unev_hs_clinic.html）

（概要）
本学の建学の理念及び本学科の教育研究上の目的を理解し、本学科の教育研究に強い関心を持ち、下記のような志を持った学生を医療保健学部 臨床工学科は受け入れる。

1.医療保健学部 臨床工学科の専門分野の学修と研究に強い意欲を持って挑み、保健、医療、福祉等の分野で自立して活躍することをめざす人
2. 国際的な教養と豊かな人間性を育み、持続可能な社会の実現に貢献する意欲がある人
3.医療に携わる者としての倫理観を持ち、協調性やコミュニケーション能力がある人
4.医療の現状と将来像の予測に立って、高度化が進む医療機器の知識について、主体的に生涯学修を続けていける人

入学後の学修のため、以下の教科・科目の内容を入学前に修得していることが望まれる。
【数学(数学Ⅱ・B相当)、英語や国語(現代文)の基礎力にかかわる教科・科目】

学部等名　医療保健学部リハビリテーション学科理学療法学専攻
教育研究上の目的 （公表方法：https://www.teu.ac.jp/gakubu/medical/policy/unev_hs_pt.html）
（概要） 医療保健学部、リハビリテーション学科、理学療法学専攻は、理学療法学を学び、障害を有する者のリハビリーションを全人的立場から実施し、有効な治療を工夫して行う有為な人材を養成する。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：https://www.teu.ac.jp/gakubu/medical/policy/unev_hs_pt.html）
（概要） 本学の建学の理念及び本学部専攻の教育研究上の目的に基づき、次の学修到達目標に定める資質・能力を身に付け、本専攻で定める所定の期間在学し、所定の単位を修得した学生に対し、卒業を認定し、学士の学位を授与する。 1.国際的な教養 ・人々や社会・文化の多様性を理解し、社会人・国際人として活躍できる教養を身に付ける。 ・情報リテラシー・数理科学（情報機器活用能力やデータサイエンスの素養を含む）、自然科学分野における教養を身に付ける。 2.実学に基づく専門能力 ・機能的運動能力の向上と健康増進に寄与する理学療法士に必要な知識を身に付ける。 ・理学療法の基礎、評価、実践および研究に必要な知識やその応用力を講義、演習及び実習をとおして身に付ける。 3.コミュニケーション能力 ・わかりやすく自分の考えや研究成果を伝える力を身に付ける。 ・多様な価値観を持つ人々との意見の違いや相手の立場を理解する力を身に付ける。 ・他職種の専門性を理解し協働出来る調整能力とコミュニケーション能力を身に付ける。 4.論理的な思考力 ・論理的に考える力（レポートを科学的な方法で執筆する力を含む）を身に付ける。 5.分析・評価能力 ・収集した情報を分析的・批判的に捉える力を身に付ける。 6.問題解決力 ・科学的な思索を通して、課題を発見し、解決する力を身に付ける。

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：https://www.teu.ac.jp/gakubu/medical/policy/unev_hs_pt.html）

（概要）
医療保健学部 リハビリテーション学科　理学療法学専攻の学位授与の方針に掲げる資質・能力を修得するため、教育課程編成・実施の方針、学修成果の評価方法を次のように定める。

教育課程編成・実施の方針
　教育課程は、基礎教育科目、専門基礎科目、専門科目から構成する。

1.基礎教育科目は、以下の科目群から編成する。
人文、社会、英語、心身ウェルネス、コンピュータ、人間形成、自然科学
2.専門基礎科目は、以下の各分野の科目から編成する。
医学、理学療法学及びそれらを活用する基礎科目の講義・実習
3.専門科目は、以下の各分野の科目から構成する。
理学療法学の専門分野を深めるための科目の講義・実習、及び卒業研究

これらの授業科目は、講義、演習、実習、実験等を組み合わせて体系的に編成し、学生の主体的・能動的な学修・研究を促す。

学修成果の評価方法
授業の形態（講義、演習、実習、実験等）に応じて、定期試験、レポート、授業中の小テストや発表等各科目のシラバスに明記された評価方法に基づき、学修成果を厳格に判定する。主な課題研究（とくに、卒業年次の課題研究）では、複数の教員の前で各学生が研究成果を発表する審査会を開催し、学生の総合的能力を複数の教員が評価する。

入学者の受入れに関する方針
（公表方法：https://www.teu.ac.jp/gakubu/medical/policy/unev_hs_pt.html）

（概要）
本学の建学の理念及び本専攻の教育研究上の目的を理解し、本専攻の教育研究に強い関心を持ち、下記のような志を持った学生を医療保健学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻は受け入れる。

1.医療保健学部 リハビリテーション学科　理学療法学専攻の専門分野の学修と研究に強い意欲を持って挑み、保健、医療、福祉等の分野で自立して活躍することをめざす人
2.国際的な教養と豊かな人間性を育み、持続可能な社会の実現に貢献する意欲がある人
3.医療に携わる者としての倫理観を持ち、協調性やコミュニケーション能力がある人
4.科学的視点から得られた情報を総合的に勘案して理学療法学を理解し、問題を解決しようとする人

入学後の学修のため、以下の教科・科目の内容を入学前に修得していることが望まれる。
【数学(数学Ⅰ・A 相当)、英語や国語(現代文)の基礎力にかかわる教科・科目】

学部等名　医療保健学部リハビリテーション学科作業療法学専攻
教育研究上の目的 （公表方法：https://www.teu.ac.jp/gakubu/medical/policy/unev_hs_ot.html）
（概要） 医療保健学部、リハビリテーション学科、作業療法学専攻は、作業療法を学び、乳幼児期から老年期までの生活障害を改善し、生活の質（QOL）と意欲の向上に資する技術者として活動する有為な人材を養成する。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：https://www.teu.ac.jp/gakubu/medical/policy/unev_hs_ot.html）
（概要） 本学の建学の理念及び本学部専攻の教育研究上の目的に基づき、次の学修到達目標に定める資質・能力を身に付け、本専攻で定める所定の期間在学し、所定の単位を修得した学生に対し、卒業を認定し、学士の学位を授与する。 1.国際的な教養 ・人々や社会・文化の多様性を理解し、社会人・国際人として活躍できる教養を身に付ける。 ・情報リテラシー・数理科学(情報機器活用能力やデータサイエンスの素養を含む)、自然科学分野における教養を身に付ける。 2.実学に基づく専門能力 ・医療、保健、福祉、教育、職業等の分野の臨床家・研究者・技術者となるために必要な基礎知識やその応用力（作業に焦点を当てた治療・指導・援助ができる専門職としての知識及び技能）を身に付ける。 3.コミュニケーション能力 ・わかりやすく自分の考えや研究成果を積極的に伝える力を身に付ける。 ・多様な価値観を持つ人々との意見の違いや相手の立場を理解する力を身に付ける。 ・他職種の専門性を理解し協働できる調整力とコミュニケーション能力を身に付ける。 4.論理的な思考力 ・論理的に考える力（レポートを科学的な方法で執筆する力を含む）を身に付ける。 5.分析・評価能力 ・収集した情報を分析的・批判的に捉える力を身に付ける。 6.問題解決力 ・科学的な思索を通して、課題を発見し、解決する力を身に付ける。

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：https://www.teu.ac.jp/gakubu/medical/policy/unev_hs_ot.html）

（概要）
医療保健学部リハビリテーション学科作業療法学専攻の学位授与の方針に掲げる資質・能力を修得するため、教育課程編成・実施の方針、学修成果の評価方法を次のように定める。

教育課程編成・実施の方針
教育課程は、基礎教育科目、専門基礎科目、専門科目から構成する。

1.基礎教育科目は、以下の科目群から編成する。
人文、社会、英語、心身ウェルネス、コンピュータ、人間形成、自然科学
2.専門基礎科目は、以下の各分野の科目から編成する。
基礎医学、臨床医学、作業療法学及びそれらを活用する基礎科目
3.専門科目は、以下の各分野の科目から構成する。
人ー作業ー環境の関係性を有する基礎科学としての作業療法学及び応用科学としての作業療法学等の専門分野を深めるための科目、及び課題研究

これらの授業科目は、講義、演習、実習、実験等を組み合わせて体系的に編成し、学生の主体的・能動的な学修・研究を促す。

学修成果の評価方法
授業の形態（講義、演習、実習、実験等）に応じて、定期試験、レポート、授業中の小テストや発表等各科目のシラバスに明記された評価方法に基づき、学修成果を厳格に判定する。主な課題研究(とくに、卒業年次の課題研究)では、複数の教員の前で各学生が研究成果を発表する審査会を開催し、学生の総合的能力を複数の教員が評価する。

入学者の受入れに関する方針
（公表方法：https://www.teu.ac.jp/gakubu/medical/policy/unev_hs_ot.html）

（概要）
本学の建学の理念及び本専攻の教育研究上の目的を理解し、本専攻の教育研究に強い関心を持ち、下記のような志を持った学生を医療保健学部リハビリテーション学科作業療法学専攻は受け入れる。

1.医療保健学部リハビリテーション学科作業療法学専攻の専門分野の学修と研究に強い意欲を持って主体的に挑み、保健、医療、福祉、教育、職業等の分野で自立して活躍することをめざす人
2.国際的な教養と豊かな人間性を育み、持続可能な社会の実現に貢献する意欲がある人
3.対象者を中心に考え、相手を思いやる倫理観を兼ね備えた人
4.対象者や他職種を含めた他者と協働する態度を備え、それに必要なコミュニケーション能力を持つ人

入学後の学修のため、以下の教科・科目の内容を入学前に修得していることが望まれる。
【数学(数学Ⅰ・A 相当)、英語や国語(現代文)の基礎力にかかわる教科・科目】

学部等名　医療保健学部リハビリテーション学科言語聴覚学専攻
教育研究上の目的 （公表方法：https://www.teu.ac.jp/gakubu/medical/policy/unev_hs_st.html）
（概要） 医療保健学部、リハビリテーション学科、言語聴覚学専攻は、言語聴覚学を学び、音声・言語・聴覚・嚥下機能の障害に対し、検査・評価をとおして、有効な指導、支援を行う有為な人材を養成する。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：https://www.teu.ac.jp/gakubu/medical/policy/unev_hs_st.html）
（概要） 本学の建学の理念及び本学部専攻の教育研究上の目的に基づき、次の学修到達目標に定める資質・能力を身に付け、本専攻で定める所定の期間在学し、所定の単位を修得した学生に対し、卒業を認定し、学士の学位を授与する。 1.国際的な教養 ・人々や社会・文化の多様性を理解し、社会人・国際人として活躍できる教養を身に付ける。 ・情報リテラシー・数理科学(情報機器活用能力やデータサイエンスの素養を含む)、自然科学分野における教養を身に付ける。 2.実学に基づく専門能力 ・言葉で表現できない不利益、食べられない苦悩から対象者の人権、尊厳を守り、生きる喜び、意欲を支える人間性を身に付ける。 ・言語聴覚学・言語聴覚障害学にかかわる基礎知識やその応用力（評価・訓練・指導にかかる技能等）を身に付ける。 3.コミュニケーション能力 ・わかりやすく自分の考えや研究成果を伝える力を身に付ける。 ・多様な価値観を持つ人々との意見の違いや相手の立場を理解する力を身に付ける。 ・他職種の専門性を理解し、協働できる調整力とコミュニケーション能力を身に付ける。 4.論理的な思考力 ・論理的に考える力（レポートを科学的な方法で執筆する力を含む）を身に付ける。 5.分析・評価能力 ・収集した情報を分析的・批判的に捉える力を身に付ける。 6.問題解決力 ・科学的な思索を通して、課題を発見し、解決する力を身に付ける。

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：https://www.teu.ac.jp/gakubu/medical/policy/unev_hs_st.html）

（概要）
医療保健学部 リハビリテーション学科 言語聴覚学専攻の学位授与の方針に掲げる資質・能力を修得するため、教育課程編成・実施の方針、学修成果の評価方法を次のように定める。

教育課程編成・実施の方針
教育課程は、基礎教育科目、専門基礎科目、専門科目から構成する。

1.基礎教育科目は、以下の科目群から編成する。
人文、社会、英語、心身ウェルネス、コンピュータ、人間形成、自然科学
2.専門基礎科目は、以下の各分野の科目から編成する。
基礎医学、臨床医学、臨床歯科医学、音声・言語・聴覚医学、心理学、言語学、音声学、音響学、言語発達学、社会福祉・教育
3.専門科目は、以下の各分野の科目から構成する。
言語聴覚障害学総論、失語・高次脳機能障害学、言語発達障害学、発声発語・嚥下障害学、聴覚障害学、臨床実習

これらの授業科目は、講義、演習、実習、実験等を組み合わせて体系的に編成し、学生の主体的・能動的な学修・研究を促す。

学修成果の評価方法
授業の形態（講義、演習、実習、実験等）に応じて、定期試験、レポート、授業中の小テストや発表等各科目のシラバスに明記された評価方法に基づき、学修成果を厳格に判定する。主な課題研究（とくに、卒業年次の課題研究）では、複数の教員の前で各学生が研究成果を発表する審査会を開催し、学生の総合的能力を複数の教員が評価する。

入学者の受入れに関する方針
（公表方法：https://www.teu.ac.jp/gakubu/medical/policy/unev_hs_st.html）

（概要）
本学の建学の理念及び本専攻の教育研究上の目的を理解し、本専攻の教育研究に強い関心を持ち、下記のような志を持った学生を医療保健学部 リハビリテーション学科言語聴覚学専攻は受け入れる。

1.医療保健学部 リハビリテーション学科言語聴覚学専攻の専門分野の学修と研究に強い意欲を持って挑み、保健、医療、福祉等の分野で自立して活躍することをめざす人
2.国際的な教養と豊かな人間性を育み、持続可能な社会の実現に貢献する意欲がある人
3.医療に携わる者としての倫理観を持ち、協調性やコミュニケーション能力がある人
4.対象者の置かれた状況から生ずる問題を想像し、解決方法を模索するために主体的に学び続けられる人

入学後の学修のため、以下の教科・科目の内容を入学前に修得していることが望まれる。
【数学(数学Ⅰ・A 相当)、英語や国語(現代文)の基礎力にかかわる教科・科目】

学部等名　医療保健学部臨床検査学科
教育研究上の目的 （公表方法：https://www.teu.ac.jp/gakubu/medical/policy/unev_hs_mt.html）
（概要） 医療保健学部、臨床検査学科は、日進月歩で進む医療を支える臨床検査の新知識を学び、正しい診断情報を提供する臨床検査のエキスパートとなる有為な人材を養成する。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：https://www.teu.ac.jp/gakubu/medical/policy/unev_hs_mt.html）
（概要） 本学の建学の理念及び本学部学科の教育研究上の目的に基づき、次の学修到達目標に定める資質・能力を身に付け、本学科で定める所定の期間在学し、所定の単位を修得した学生に対し、卒業を認定し、学士の学位を授与する。 1.国際的な教養 ・人々や社会・文化の多様性を理解し、社会人・国際人として活躍できる教養を身に付ける。 ・情報リテラシー・数理科学(情報機器活用能力やデータサイエンスの素養を含む)、自然科学分野における教養を身に付ける。 2.実学に基づく専門能力 ・医学・臨床検査学にかかわる基礎知識やその応用力（検査法の操作技能等）を身に付ける。臨床検査学分野の研究者・技術者となるために必要な基礎知識やその応用力（検査法の操作技能等）を身に付ける。 3.コミュニケーション能力 ・わかりやすく自分の考えや研究成果を伝える力を身に付ける。 ・多様な価値観を持つ人々との意見の違いや相手の立場を理解する力を身に付ける。 ・他職種の専門性を理解し協働できる調整力とコミュニケーション能力を身に付ける。 4.論理的な思考力 ・論理的に考える力（レポートを科学的な方法で執筆する力を含む）を身に付ける。 5.分析・評価能力 ・収集した情報を分析的・批判的に捉える力を身に付ける。 6.問題解決力 ・科学的な思索を通して、課題を発見し、解決する力を身に付ける。

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：https://www.teu.ac.jp/gakubu/medical/policy/unev_hs_mt.html）

（概要）
医療保健学部 臨床検査学科の学位授与の方針に掲げる資質・能力を修得するため、教育課程編成・実施の方針、学修成果の評価方法を次のように定める。

教育課程編成・実施の方針
教育課程は、基礎教育科目、専門基礎科目、専門科目から構成する。

1.基礎教育科目は、以下の科目群から編成する。
人文、社会、英語、心身ウェルネス、コンピュータ、人間形成、自然科学
2.専門基礎科目は、以下の各分野の科目から編成する。
医学、臨床検査学及びそれらを活用する基礎科目の講義・実習
3.専門科目は、以下の各分野の科目から構成する。
臨床検査の専門分野を深めるための科目の講義・実習、及び卒業研究

これらの授業科目は、講義、演習、実習、実験等を組み合わせて体系的に編成し、学生の主体的・能動的な学修・研究を促す。

学修成果の評価方法
授業の形態（講義、演習、実習、実験等）に応じて、定期試験、レポート、授業中の小テストや発表等各科目のシラバスに明記された評価方法に基づき、学修成果を厳格に判定する。主な課題研究(とくに、卒業年次の課題研究)では、複数の教員の前で各学生が研究成果を発表する審査会を開催し、学生の総合的能力を複数の教員が評価する。

入学者の受入れに関する方針
（公表方法：https://www.teu.ac.jp/gakubu/medical/policy/unev_hs_mt.html）

（概要）
本学の建学の理念及び本学科の教育研究上の目的を理解し、本学科の教育研究に強い関心を持ち、下記のような志を持った学生を医療保健学部 臨床検査学科は受け入れる。

1.医療保健学部 臨床検査学科の専門分野の学修と研究に強い意欲を持って挑み、保健、医療、福祉等の分野で自立して活躍することをめざす人
2.国際的な教養と豊かな人間性を育み、持続可能な社会の実現に貢献する意欲がある人
3.医療に携わる者としての倫理観を持ち、協調性やコミュニケーション能力がある人
4.科学的視点から得られた情報を総合的に勘案して臨床検査を理解し、問題を解決しようとする人

入学後の学修のため、以下の教科・科目の内容を入学前に修得していることが望まれる。
【生物、化学、数学(数学 II・B 相当)、英語や国語(現代文)の基礎力にかかわる教科・科目】

学部等名　デザイン学部
教育研究上の目的 （公表方法：https://www.teu.ac.jp/gakubu/design/policy/unev_ds_2024.html）
（概要） デザイン学部、デザイン学科は、広く芸術に関する理論と実践を教授する。加えて、「描く」「作る」等を中心とした感性教育とこれからのデザイン分野に必要な最先端スキルを教育することによって、感性豊かで、最先端のスキルを駆使し広範なデザイン分野で活躍できる有為な人材を養成する。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：https://www.teu.ac.jp/gakubu/design/policy/unev_ds_2024.html）
（概要） 本学の建学の理念及び本学部の教育研究上の目的に基づき、次の学修到達目標に定める資質・能力を身に付け、本学部で定める所定の期間在学し、所定の単位を修得した学生に対し、卒業を認定し、学士の学位を授与する。 1.国際的な教養 ・人々や社会・文化の多様性を理解し、社会人・国際人として活躍できる教養を身に付ける。 ・情報リテラシー・数理科学(情報機器活用能力やデータサイエンスの素養を含む)、自然科学分野における教養を身に付ける。 2.実学に基づく専門能力 ・生活の質を高めるためのデザインの考え方やその実現のために、チーム力、集中力、提案力、実現力、取材力、発想力の６つの力を備え、デザインの新しい価値の創造力を身につける。 3.コミュニケーション能力 ・わかりやすく自分の考えや研究成果を伝える力を身に付ける。 ・多様な価値観を持つ人々との意見の違いや相手の立場を理解し、行動する力を身に付ける。 4.論理的な思考力 ・論理的に考える力(レポートを科学的な方法で執筆する力を含む)を身に付ける。 5.分析・評価能力 ・収集した情報を分析的・批判的に捉える力を身に付ける。 6.問題解決力 ・創造的な思考を通して、課題を発見し、解決する力を身に付ける。

教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法：https://www.teu.ac.jp/gakubu/design/policy/unev_ds_2024.html）
（概要） デザイン学部の学位授与の方針に掲げる資質・能力を修得するため、教育課程編成・実施の方針、学修成果の評価方法を次のように定める。 教育課程編成・実施の方針 教育課程は、実学基礎科目、専門教育科目から構成する。 1.実学基礎科目は、以下の科目群から編成する。 人文・社会、外国語、情報・数理科目(情報機器の活用技術やデータサイエンスを含む)、自然科学、ウェルビーイング、社会人基礎(キャリア教育科目を含む)、社会連携(就業経験、地域活動、海外実習など各種の学外との連携プログラムを含む) 2.専門教育科目は、以下の科目群から編成する。 感性演習などデザインにおける専門分野の基礎知識や基礎技術を学ぶ共通科目、スキル演習、専門スキル演習、専門演習などデザインにおける専門分野を深めるための専門科目、及び、デザイン専門研究や卒業研究 これらの授業科目は、講義、演習、実習、を組み合わせて体系的に編成し、学生の主体的・能動的な学修・研究を促す。 学修成果の評価方法 授業の形態（講義、演習、実習）に応じて、定期試験、レポート、授業中の小テストや課題作品、発表等各科目のシラバスに明記された評価方法に基づき、学修成果を厳格に判定する。主な課題研究(とくに、卒業年次の課題研究)では、複数の教員の前で各学生が研究成果を発表する審査会を開催し、学生の総合的能力を複数の教員が評価する。
入学者の受入れに関する方針 （公表方法：https://www.teu.ac.jp/gakubu/design/policy/unev_ds_2024.html）
（概要） 本学の建学の理念及び本学部の教育研究上の目的を理解し、本学部の教育研究に強い関心を持ち、下記のような志を持った学生をデザイン学部は受け入れる。 1.デザイン学部の専門分野の学修と研究に強い意欲を持って挑み、視覚デザイン、情報デザイン、工業デザイン、空間デザイン等の分野で自立して活躍することをめざす人 2.国際的な教養と豊かな人間性を育み、持続可能な社会の実現に貢献する意欲がある人 3.社会の状況に関心を持ち、他者と協力しながら主体的に取り組める人 入学後の学修のため、以下の教科・科目の内容を入学前に修得していることが望まれる。 【数学(II・B相当)、英語や国語(現代文)の基礎力にかかわる教科・科目】

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：東京工科大学ホームページ　情報公開ページにて公開 https://www.teu.ac.jp/koukai/index.html

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）

学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手その他	計
－	4 人	－					4 人
応用生物学部	－	20 人	2 人	3 人	6 人	4 人	35 人
コンピュータサイエンス学部	－	16 人	5 人	8 人	3 人	4 人	36 人
メディア学部	－	13 人	9 人	8 人	4 人	2 人	36 人
工学部	－	18 人	4 人	5 人	5 人	3 人	35 人
医療保健学部	－	25 人	17 人	14 人	21 人	6 人	83 人
デザイン学部	－	6 人	7 人	7 人	3 人	0 人	23 人
教養学環	－	13 人	3 人	4 人	0 人	0 人	20 人
附置研究所	－	12 人	0 人	1 人	1 人	0 人	14 人
その他	－	3 人	0 人	2 人	0 人	0 人	5 人

b. 教員数（兼務者）

学長・副学長	学長・副学長以外の教員	計
0 人	194 人	194 人

各教員の有する学位及び業績（教員データベース等）	公表方法：https://www.teu.ac.jp/koukai/19430/2-1/index.html

c. ＦＤ（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員(a)	入学者数(b)	b/a	収容定員(c)	在学生数(d)	d/c	編入学定員	編入学者数
応用生物学部	260 人	280 人	107.7%	1,103 人	1,112 人	100.8%	24 人	1 人
コンピュータサイエンス学部	290 人	326 人	112.4%	1,238 人	1,400 人	113.1%	30 人	25 人
メディア学部	290 人	310 人	106.9%	1,235 人	1,351 人	109.4%	29 人	21 人
工学部	280 人	298 人	106.4%	1,159 人	1,235 人	106.6%	13 人	4 人
医療保健学部	400 人	418 人	104.5%	1,600 人	1,647 人	102.9%	0 人	0 人
デザイン学部	200 人	210 人	105.0%	800 人	845 人	105.6%	0 人	1 人
合計	1,720 人	1,842 人	107.1%	7,135 人	7,590 人	106.4%	96 人	52 人

（備考）

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
応用生物学部	267 人 (100%)	34 人 (12.7%)	224 人 (83.9%)	9 人 (3.4%)
コンピュータサイエンス学部	319 人 (100%)	36 人 (11.3%)	277 人 (86.8%)	6 人 (1.9%)
メディア学部	315 人 (100%)	13 人 (4.1%)	272 人 (86.3%)	30 人 (9.5%)
工学部	288 人 (100%)	50 人 (17.4%)	234 人 (81.3%)	4 人 (1.4%)
医療保健学部	324 人 (100%)	10 人 (3.1%)	298 人 (92.0%)	16 人 (4.9%)
デザイン学部	188 人 (100%)	8 人 (4.3%)	172 人 (91.5%)	8 人 (4.3%)
合計	1,701 人 (100%)	151 人 (8.9%)	1,477 人 (86.8%)	73 人 (4.3%)

（主な進学先・就職先）（任意記載事項）

（備考）

c.修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
応用生物学部 応用生物学科	279 人 (100%)	237 人 (85.0%)	22 人 (7.9%)	20 人 (7.2%)	0 人 (0.0%)
コンピュータサイエンス学部 コンピュータサイエンス学科	318 人 (100%)	256 人 (80.5%)	43 人 (13.5%)	19 人 (6.0%)	0 人 (0.0%)
メディア学部 メディア学科	326 人 (100%)	260 人 (79.8%)	40 人 (12.3%)	26 人 (8.0%)	0 人 (0.0%)
工学部 機械工学科	107 人 (100%)	90 人 (84.1%)	10 人 (9.3%)	7 人 (6.5%)	0 人 (0.0%)
工学部 電気電子工学科	106 人 (100%)	88 人 (83.0%)	9 人 (8.5%)	9 人 (8.5%)	0 人 (0.0%)
工学部 応用化学科	92 人 (100%)	76 人 (82.6%)	6 人 (6.5%)	10 人 (10.9%)	0 人 (0.0%)
医療保健学部 看護学科	82 人 (100%)	61 人 (74.4%)	10 人 (12.2%)	11 人 (13.4%)	0 人 (0.0%)
医療保健学部 臨床工学科	83 人 (100%)	68 人 (81.9%)	12 人 (14.5%)	3 人 (3.6%)	0 人 (0.0%)
医療保健学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻	85 人 (100%)	65 人 (76.5%)	12 人 (14.1%)	8 人 (9.4%)	0 人 (0.0%)
医療保健学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻	41 人 (100%)	32 人 (78.0%)	5 人 (12.2%)	4 人 (9.8%)	0 人 (0.0%)
医療保健学部 リハビリテーション学科 言語聴覚学専攻	24 人 (100%)	13 人 (54.2%)	5 人 (20.8%)	6 人 (25.0%)	0 人 (0.0%)
医療保健学部 臨床検査学科	86 人 (100%)	55 人 (64.0%)	18 人 (20.9%)	13 人 (15.1%)	0 人 (0.0%)
デザイン学部 デザイン学科	212 人 (100%)	175 人 (82.6%)	20 人 (9.4%)	17 人 (8.0%)	0 人 (0.0%)
合計	1841 人 (100%)	1476 人 (80.2%)	212 人 (11.5%)	153 人 (8.3%)	0 人 (0.0%)

（備考）

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

（概要）
本学では、全ての科目においてシラバスを作成し、学生に授業の方法、内容、到達目標、成績評価の基準等を示している。これらのシラバスは、学内外問わず、ホームページから閲覧することができる。
毎年、教務部長が委員長である全学教育委員会においてシラバス作成に関するガイドラインの内容を検討している。シラバス作成依頼時には、次年度のシラバスを作成する全教員に対し、「シラバス作成にあたってのお願い」という文書を送付し、これに沿って全教員はシラバスを作成している。また、全てのシラバスについて、ガイドラインに沿った内容になっているか各学部、教養学環の教務委員長を中心に第三者による確認作業を行い、必要に応じて書き直しをさせている。
シラバスは、公開前年の 12 月に作成を開始し、上記の第三者による確認を経て、各学部の新年度ガイダンスが始まる前の 3 月下旬にホームページを通じて学内外に公開している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

（概要）
成績評価については、試験の結果および平素の学修状況を総合して判定することとしている。各授業科目のシラバスに成績評価方法・基準という欄を設け、レポートや試験などの評価要素をどのような比率で総合成績に反映するか学生に理解できるように記述している。このあらかじめ学生に示した基準に基づき、厳格かつ適正に成績評価、単位認定を実施している。

学部名	学科名	卒業に必要となる単位数	ＧＰＡ制度の採用（任意記載事項）	履修単位の登録上限（任意記載事項）
応用生物学部	応用生物学科	124 単位	有	半期 24 単位
コンピュータサイエンス学部	コンピュータサイエンス学科	124 単位	有	半期 24 単位
メディア学部	メディア学科	124 単位	有	半期 24 単位
工学部	機械工学科	124 単位	有	半期 24 単位
	電気電子工学科	124 単位	有	半期 24 単位
	応用化学科	124 単位	有	半期 24 単位
医療保健学部	看護学科	128 単位	有	年間 48 単位
	臨床工学科	128 単位	有	年間 48 単位
	作業療法学科	128 単位	有	年間 48 単位
	臨床検査学科	128 単位	有	年間 48 単位
	リハビリテーション学科	128 単位	有	年間 48 単位
デザイン学部	デザイン学科	124 単位	有	半期 24 単位
ＧＰＡの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報（任意記載事項）		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：東京工科大学ホームページ　情報公開ページにて公開
https://www.teu.ac.jp/koukai/index.html

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 （年間）	入学金	その他	備考 （任意記載事項）
応用生物学部	応用生物学科	1,376,000 円	250,000 円	0 円	休学在籍料 （半期）60,000 円
コンピュータサイエンス学部	コンピュータサイエンス学科	1,326,000 円	250,000 円	0 円	休学在籍料 （半期）60,000 円
メディア学部	メディア学科	1,326,000 円	250,000 円	0 円	休学在籍料 （半期）60,000 円
工学部	機械工学科	1,376,000 円	250,000 円	0 円	休学在籍料 （半期）60,000 円
	電気電子学科				休学在籍料 （半期）60,000 円
	応用化学科				休学在籍料 （半期）60,000 円
医療保健学部	看護学科	1,650,000 円	450,000 円	0 円	休学在籍料 （半期）60,000 円
	臨床工学科	1,560,000 円	340,000 円	0 円	休学在籍料 （半期）60,000 円
	リハビリテーション学科				休学在籍料 （半期）60,000 円
	臨床検査学科				休学在籍料 （半期）60,000 円
デザイン学部	デザイン学科	1,560,000 円	250,000 円	0 円	休学在籍料 （半期）60,000 円

※上記授業料は入学１年目の学費である。なお、２年目以降の授業料は以下のとおりである。

学部名	学科名	授業料 （年間）		
		２年目	３年目	４年目
応用生物学部	応用生物学科	1,406,000 円	1,442,000 円	1,478,000 円
コンピュータサイエンス学部	コンピュータサイエンス学科	1,356,000 円	1,392,000 円	1,428,000 円
メディア学部	メディア学科	1,356,000 円	1,392,000 円	1,428,000 円
工学部	機械工学科	1,406,000 円	1,442,000 円	1,478,000 円
	電気電子工学科			
	応用化学科			
医療保健学部	看護学科	1,680,000 円	1,716,000 円	1,750,000 円
	臨床工学科	1,590,000 円	1,626,000 円	1,662,000 円
	理学療法学科			
	作業療法学科			
	リハビリテーション学科			
	臨床検査学科			
デザイン学部	デザイン学科	1,590,000 円	1,620,000 円	1,650,000 円

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a.学生の修学に係る支援に関する取組
（概要） 八王子キャンパス及び蒲田キャンパスには学修支援センターを設置している。ここでは、基本的科目・専門基礎科目の指導歴を持つ教員が常駐し、専門科目に入る前の基礎的な科目でわからない点などに対し、個別指導でアドバイスを受けることを可能としている。また、単に補習的に利用するだけでなく、興味のある特定科目の能力をさらに強化したい人の学習にも対応できるようにしている。
b.進路選択に係る支援に関する取組
（概要） 本学では、医療従事者という目標が明確である医療保健学部や学外の就業体験を行うことを必修としている工学部を除く４学部で正課の授業としてキャリアデザインという科目を設置し、学生の進路選択に資する授業を行っている。また、働くことや企業、職種を体験的に理解するための「インターンシップ」、地域社会の実情や社会課題に関する講義やディスカッションと実際の地域での活動の体験を行う「サービスラーニング」を単位化して実施している。 この他に、正課外として進路・就職・進学に関するガイダンスや、学内企業セミナーを開催し、学生の進路選択を支援している。
c.学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
（概要） 本学では、学生生活を健康面からサポートするため、医務室と学生相談室が連携し、「からだの健康」「こころの健康」「障がい支援」などについて相談できるヘルスサポートセンターを設置している。 看護師が常駐する医務室では、怪我や病気の処置だけでなく、校医による健康相談の実施と、学生のヘルスケアに向け、情報発信を行っている。 学生相談室では、公認心理師との面談の他にも、相談を希望する学生にいち早く対応するため、メーリングリストを作成し、相談や問題の早期解決に向け、専門スタッフや、教員、事務職員が連携し対応するだけでなく、情報共有を目的とした相談室会議を毎月1回開催し、対応の標準化を図っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：東京工科大学ホームページ　情報公開ページにて公開 https://www.teu.ac.jp/koukai/index.html

備考　この用紙の大きさは、日本産業規格Ａ４とする。

（別紙）

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	F113310103901
学校名（○○大学 等）	東京工科大学
設置者名（学校法人○○学園 等）	学校法人　片柳学園

１．前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		691人（　　）人	734人（　　）人	757人（　　）人
内訳	第Ⅰ区分	338人	332人	
	（うち多子世帯）	（　　人）	（　　人）	
	第Ⅱ区分	162人	162人	
	（うち多子世帯）	（　　人）	（　　人）	
	第Ⅲ区分	106人	108人	
	（うち多子世帯）	（　　人）	（　　人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	61人	86人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	24人	46人	
	区分外（多子世帯）	0人	0人	
家計急変による 支援対象者（年間）				—
合計（年間）				726人（　　）人
（備考）				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第８号）第４条第２項第１号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第４９号）第２条第１項第２号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

２．前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（１）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人

（２）適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	－		
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	0人		
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人		
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	－		
計	27人		
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（２）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期		後半期	

（３）退学又は停学（期間の定めのないもの又は３月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	－
３月以上の停学	0人
年間計	－
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

３．前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

（１）停学（３月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

３月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

（２）適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
ＧＰＡ等が下位４分の１	20人		

４．適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が警告の基準に該当）	0人		
ＧＰＡ等が下位４分の１	69人		
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	0人		
計	69人		
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。